

# 地震・風水害に備えて!

地震は突然起こる恐ろしいものです。あわてず落ち着いて行動することが安全の第一歩。台風や豪雨は計り知れない威力があります。事前の対策や普段からの心構え、準備によって被害を最小限に抑えることができます。

- ### ◆地震から身を守りましょう
1. 机の下に隠れるなど、まずは自分の身を守る。
  2. 落ち着いて、火の始末をする。
  3. 避難口を確認する。
  4. テレビやラジオで正確な地震の情報を入手する。
  5. 海岸でグラツキときたら、高台へ避難する。
  6. ブロック塀、崖地、河川、狭い路地などには近づかない。
  7. 避難は徒歩で、荷物は最小限度にする。
  8. 余震が起きても慌てずに、正しい情報に従って行動する。
  9. 不慮の地震に備えて、日頃から防災用品を用意する。
  10. みんなで協力して助け合う。

- ### ◆台風から身を守りましょう
1. 台風が接近する前に、自宅まわりの安全点検を行う。
  - \* 気になる樹木は前もって伐採する。
  - \* 雨漏りや排水溝を清掃して流れをスムーズにする。
  - \* 飛び散りやすい物は片付ける。
  2. テレビやラジオで正確な台風の情報を入手する。
  3. 台風に合わせて準備する。
  - \* 停電時に備え、懐中電灯を用意する。
  - \* 防水等に備え、水や食料を確認する。
  - \* 避難に備え、非常持出品を確認する。
  4. 避難した電線に注意する。
  5. 身の危険を感じたら、早めに避難する。
  6. 台風が去った後も、強風や豪雨に警戒する。

- ### ◆局地的大雨から身を守りましょう
- 発達した積乱雲(雷雲)により急激に降る局地的大雨によって、河川や用水路の急な増水やはん濫、低地や道路の冠水など、総雨量は少なくても、十分に被害が発生することがあります。
- 最新の気象情報を確認するとともに、空や川の変化の様子を観察し、危険を感じたら、すぐに水辺から離れ、高いところへ避難するなど、身の安全を図りましょう。

**◆こんなときは要注意!**

- ・真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- ・雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- ・ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。
- ・大粒の雨が降ります。

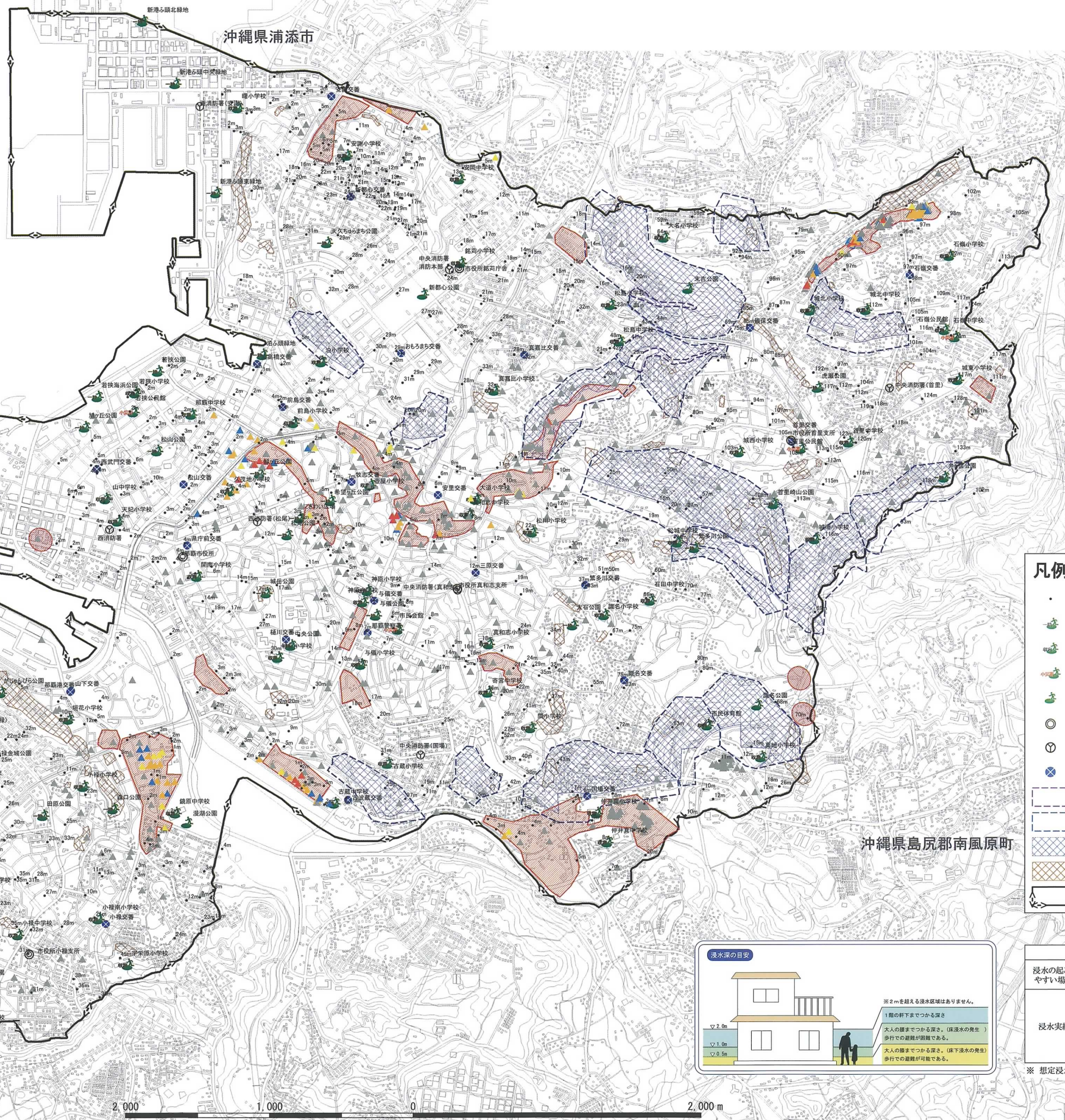
※気象庁ホームページより転載

- ### ◆土砂災害から身を守りましょう
- 土砂災害は一瞬にして生命や財産を奪います。突然おそってくる土砂災害から“命”を守るために、「日ごろの備え」と「早めの避難」を心がけましょう!

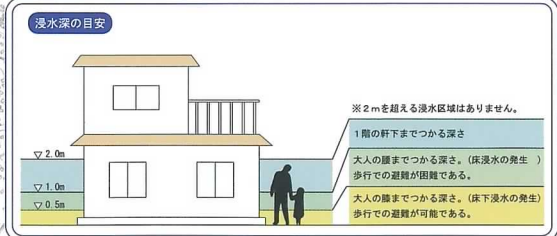
**日頃の備えと早めの避難**

- ① 土砂災害危険箇所や避難場所等を確認しておきましょう!  
※地図で確認できます。
- ② 雨が強くなってきたら、積極的に雨量情報・予報・警報等の情報を入手しましょう!  
※土砂災害の発生現象に気がついたら早めに避難しましょう!  
・斜面にふくらみや亀裂ができる。  
・小石が斜面からバラバラと落ち出す。  
・湧き水がこぼれてきたり、水の湧き出しが見られる。  
・地面にひび割れができる。
- ③ 避難勧告などの連絡があったら避難所に避難しましょう!  
豪雨などでどうしても避難所への避難が困難なときは、近くの頑丈な建物の二階以上(それも難しい場合は家の中でより安全な斜面から離れた部屋や二階)に緊急避難しましょう。

# 内水ハザードマップ



- ### 凡例
- 海拔高度(m)
  - 一時避難所
  - 収容避難所
  - 小災害避難所
  - 広域避難所
  - ◎ 市主要行政機関
  - ⊙ 消防(出張所)
  - ⊙ 警察署・交番
  - 土石流危険区域
  - 地すべり危険区域
  - 地すべり危険箇所
  - 急傾斜地崩壊危険箇所
  - 全体計画区域



凡	例
浸水の起こりやすい場所	
浸水実績	▲ 想定浸水深 1.0m以上
	▲ 想定浸水深 0.5~1.0m
	▲ 想定浸水深 0.2~0.5m
	▲ 想定浸水深 0.2m未満
▲ 想定浸水深 不明	

※ 想定浸水深は河川の高水位と地盤高からの推定値

